

情報セキュリティのマネジメントシステムに関する JIS 改正

—情報の機密性、完全性及び可用性の保護による、事業継続の向上を目指して—

2023 年 9 月 20 日

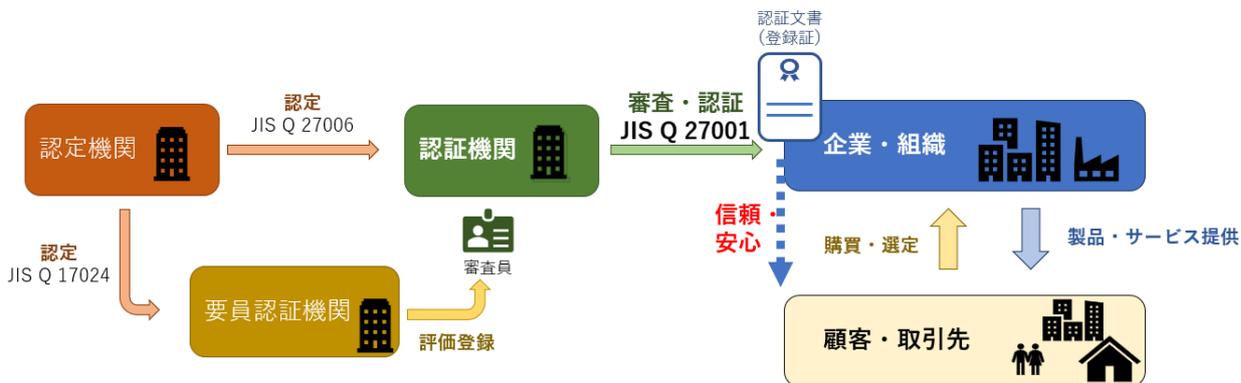
サイバー攻撃の増加や、リモートワーク、クラウドサービスといった新たなツールの拡大などが進む中で、企業や団体は、新しい情報セキュリティの取組を求められています。そうした取組が十分な水準となり、継続的であることを担保するため、「情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)」の規格が、広く利用されています。2022 年に、ISMS を規定する国際規格である ISO/IEC 27001 が改訂されたことを受けて、対応する JIS である JIS Q 27001 を改正しました。

最新の国際規格と JIS の整合が図られることにより、情報セキュリティを取り巻く技術や環境の変化への対応が可能となり、我が国の情報セキュリティの向上に一層寄与することが期待されます。

1. JIS 改正の目的

多様化する脅威に対するサイバーセキュリティ対策、クラウドサービスの利用、リモートワークの普及などの情報セキュリティを取り巻く技術や環境の変化を背景として、2022 年 10 月に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の要求事項を規定する ISO/IEC 27001 が改訂されたことを受け、これに対応する JIS である JIS Q 27001 を改正しました。

JIS Q 27001 は、組織が ISMS の確立及び実施、維持、継続的な改善を行うための要求事項や組織のニーズに応じた情報セキュリティのリスクアセスメント及びリスク対応を行うための要求事項を規定しています。ISMS は、組織の情報の機密性や完全性、可用性を保護し、事業の継続性を向上させるための基盤として、国内でも多くの組織で導入されており、本規格を認証基準とした、第三者による適合性評価も行われています。今後、改正された JIS Q 27001 に基づき、適合性評価が行われることとなります。



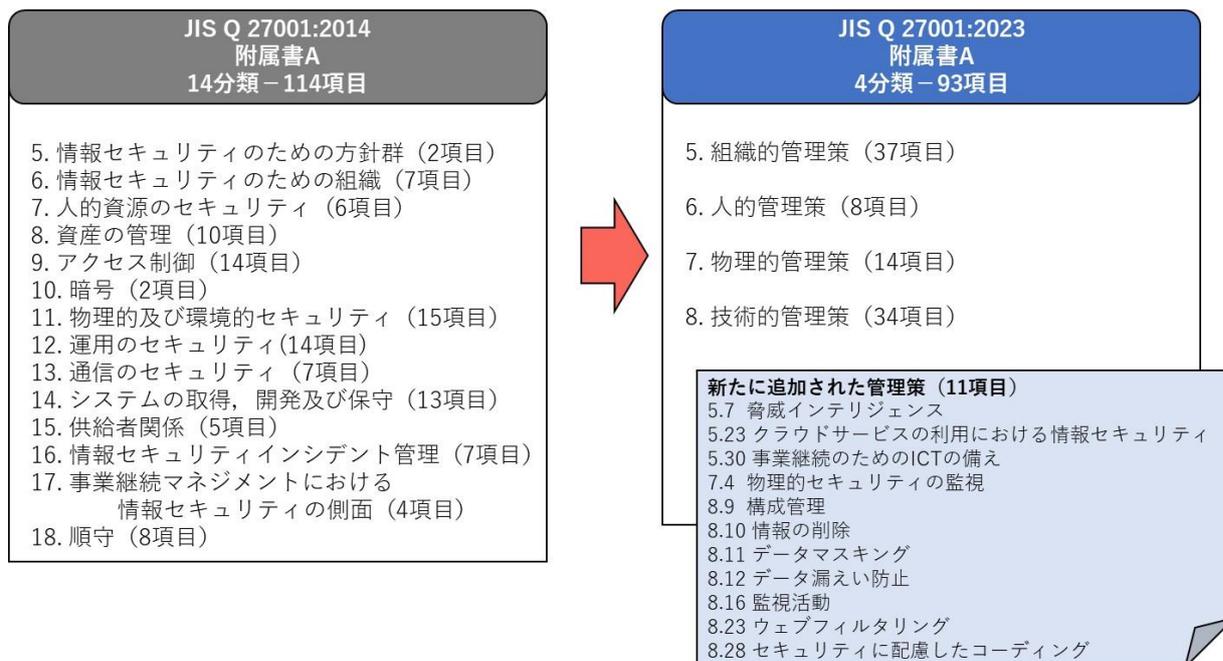
ISMS適合性評価制度におけるJIS Q 27001の位置づけ

2. JIS 改正の主なポイント

今回改正した JIS の主なポイントは次のとおりです。

① 情報セキュリティ管理策の改正

JIS Q 27001 附属書 A で規定されている情報セキュリティ管理策（情報セキュリティに係る対策）を、新たな脅威、技術動向などを踏まえて改正しました。具体的には、以下のとおり、管理策の数は、新規追加や既存の更新・統合によって、改正前の 114 から 93 に変更となり、管理策の分類は、14 分類から、組織的管理策及び人的管理策、物理的管理策、技術的管理策の 4 分類に再整理されました。



② ISO/IEC 専門業務用指針 第1部 附属書 SL の改訂内容の反映

JIS Q 27001 (本体) に、ISO マネジメントシステム規格 (MSS) を作る上でベースとなる ISO/IEC 専門業務用指針 第1部 附属書 SL[※]の 2021 年の改訂内容を反映しています。

具体的には、情報セキュリティ目的の監視や計画的な ISMS の変更、外部から提供されるプロセス・製品・サービスの管理などに関する要求事項が追加されました。

※ ISO 9001、ISO 14001、ISO/IEC 27001 のような ISO で開発される MSS 間の調和を図るために、MSS 共通の構造 (箇条タイトル、中核となるテキスト、用語及び定義)などを定めた附属書。

3. 期待される効果

本 JIS の改正により、国際規格との整合が図られるとともに、多様化する脅威に対するサイバーセキュリティ対策、及び、クラウドサービスの利用やリモートワークの普及など、情報セキュリティを取り巻く技術や環境の変化への対応が可能となります。この規格は、組織自体の情報セキュリティ要求事項を満たす組織の能力を、組織の内部で評価するためにも、外部関係者が評価するためにも用いることができることから、本 JIS の活用により、組織の情報の機密性、完全性及び可用性の保護、それによる組織の事業継続性の向上、さらには、我が国の情報セキュリティの向上や情報セキュリティ産業の発展等に一層寄与することが期待されます。

※日本産業標準調査会 (JISC) の HP (<https://www.jisc.go.jp/>) から、「Q27001」で JIS 検索する

と本文を閲覧できます。

【担当】

経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課 (bzl-s-iec@meti.go.jp、03-3501-9287)

(課長) 武重 (担当) 前場、高橋(貴)、和田